

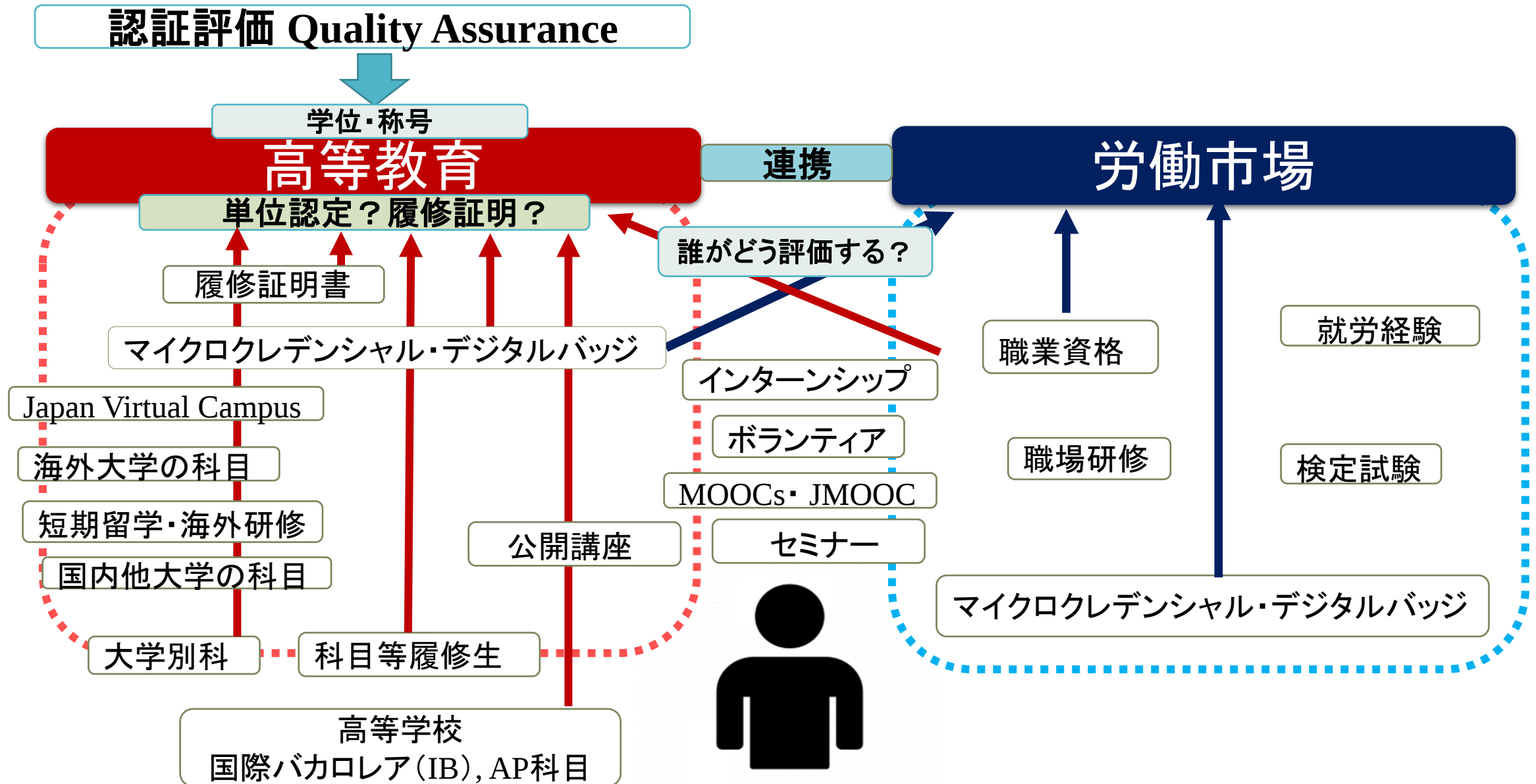


シームレス化する高等教育

-正規教育外学習の「質保証」をめぐる国際動向-

大学改革支援・学位授与機構 研究開発部
野田 文香

Lifelong learning & Lifewide Learning



報告のアウトライン

1. 非学位型短期学習へのニーズ
2. UNESCO「東京規約」と「世界規約」
3. 入学前学習の承認(Recognition of Prior Learning)
4. 全国資格枠組み(National Qualifications Framework)
5. マイクロクレデンシャルの「質保証」の試み



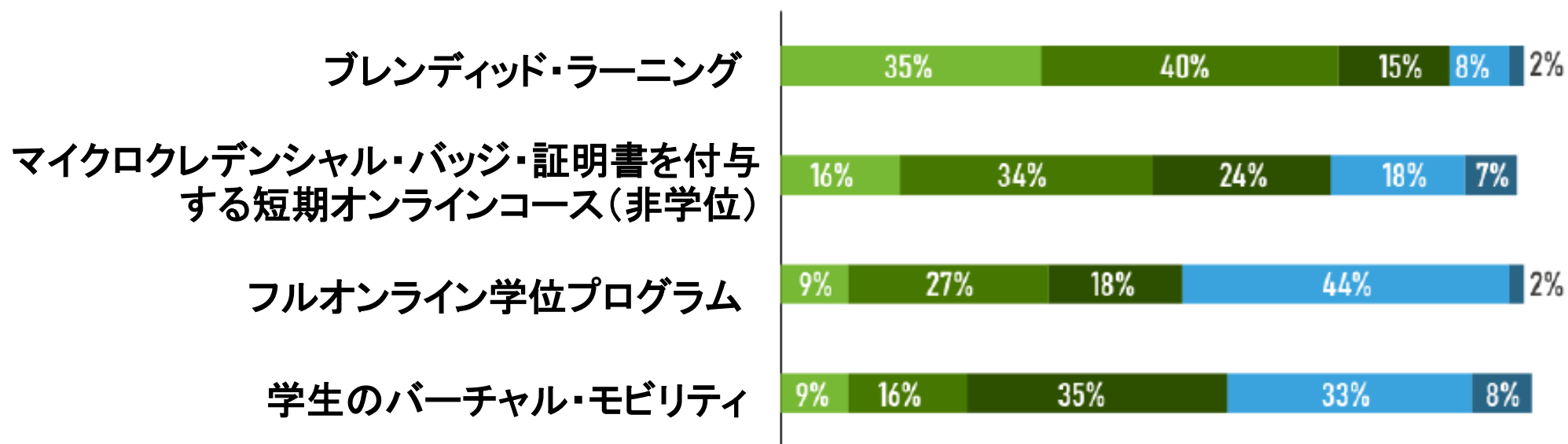
1. 非学位型短期学習へのニーズ



コロナ禍で多様化した教育形態

【欧州高等教育圏48カ国調査(2021)】

Delivery modes

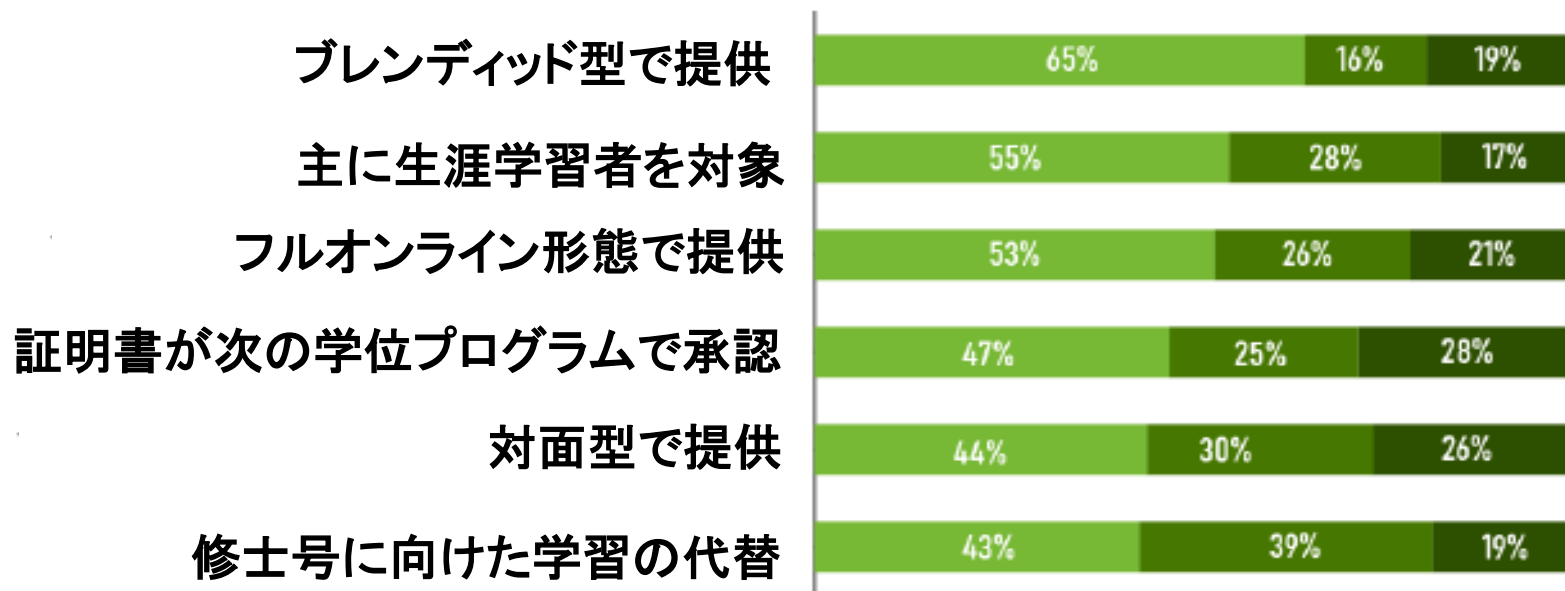


Gaebel, M., Zhang, T., Stoeber, H. & Morrisroe, A. (2021). Digitally enhanced learning and teaching in European higher education institutions. European University Association absI.

Figure 6 Q19: Does your institution offer the following delivery modes? (please select one option for each item) n= 363

マイクロクレデンシャル・バッジ・証明書 短期間の学び(非学位)に対するニーズ

Demand for short courses (non-degree) that earn certificates, micro-credentials or badges



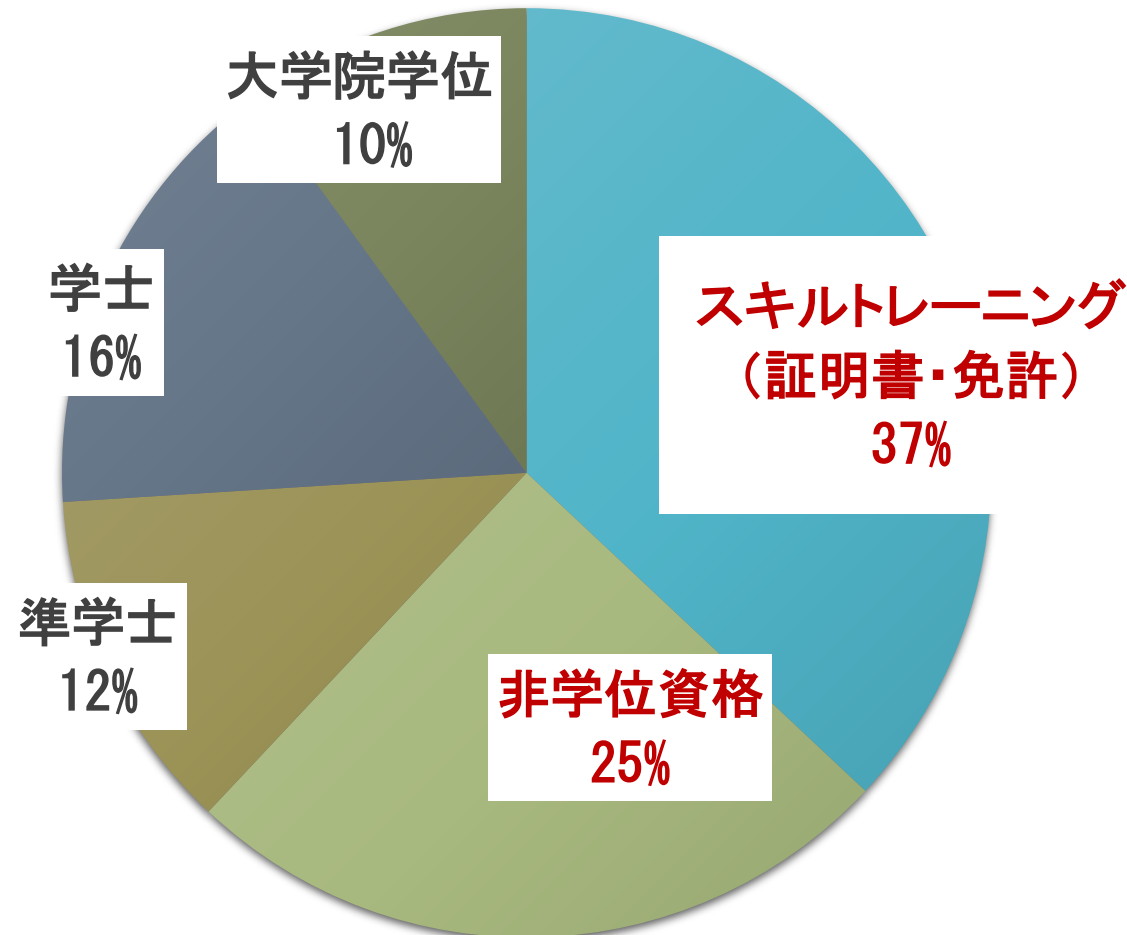
■ Agree
 ■ Disagree
 ■ Don't know

Gaebel, M., Zhang, T., Stoeber, H. & Morrisroe, A. (2021). Digitally enhanced learning and teaching in European higher education institutions. European University Association absl.

Figure 10 Q22: How would you describe the demand for short courses (non-degree) that earn certificates, micro-credentials or badges at your institution? (please select one option for each item) n= 362

コロナ禍で学習が中断された米国人 学位よりも「短期間の学び」への関心の高まり(2021)

Q. 今後6ヶ月以内にどの教育プログラムで学びたいですか？



SOURCE: STRADA PUBLIC VIEWPOINT, 2021 (18歳以上 n=5,272)

「学位+α」が必要？

■マイクロ・クレデンシャルプログラム (Coursera Specialization, edX MicroMasters)

- 受講者の多くは既に学位を有し、就業している白人やアジア系（平均年齢30-44歳）
- 修了者の85%が学士、半数が大学院の学位を保有 (Hollands & Kazi, 2019)

■学士課程にアドオンしたスキルベースのプログラム

- 企業との連携により、デジタルバッジ、ポートフォリオ、試行的成績表、プロジェクトベース学習などを提供 (Weise, 2020)
- ノースイースタン大学: IBMデジタルバッジとGoogle IT証明書を学位プログラムの単位に認定

■パンデミック以降、職業につながる資格を発行する組織数が83%増

(Gallagher & Zanville, 2021) 8

揺らぐ学位の価値:「学位よりもスキル？」

■学位要件を撤廃する一部大手企業や州政府

□Apple、Google、IBM、Hilton、Starbucks、Bank of Americaなどの大企業が一部高給ポストに学士を必要としない声明 (Glassdoor, 2021)

シニアマネージャー、ディレクター、ビジネスコンサルタント、アカウントエグゼクティブ、ソフトウェアエンジニア、アナリストなど

□メリーランド州政府は、管理職・IT・顧客サービスなどの分野で、学士を持たないが訓練・経験のある者を対象に、州政府の仕事約300の求人

(The Washington Post, 2022)

非学位資格への新たな注目の背景

01

- ・「仕事を見つけられない大卒者」と「スキルを見つけられない雇用者」
(マッキンゼー調査, 2012)
- ・ マクロ学位の価値の揺らぎ
- ・ 特定の知識・スキルの証明

02

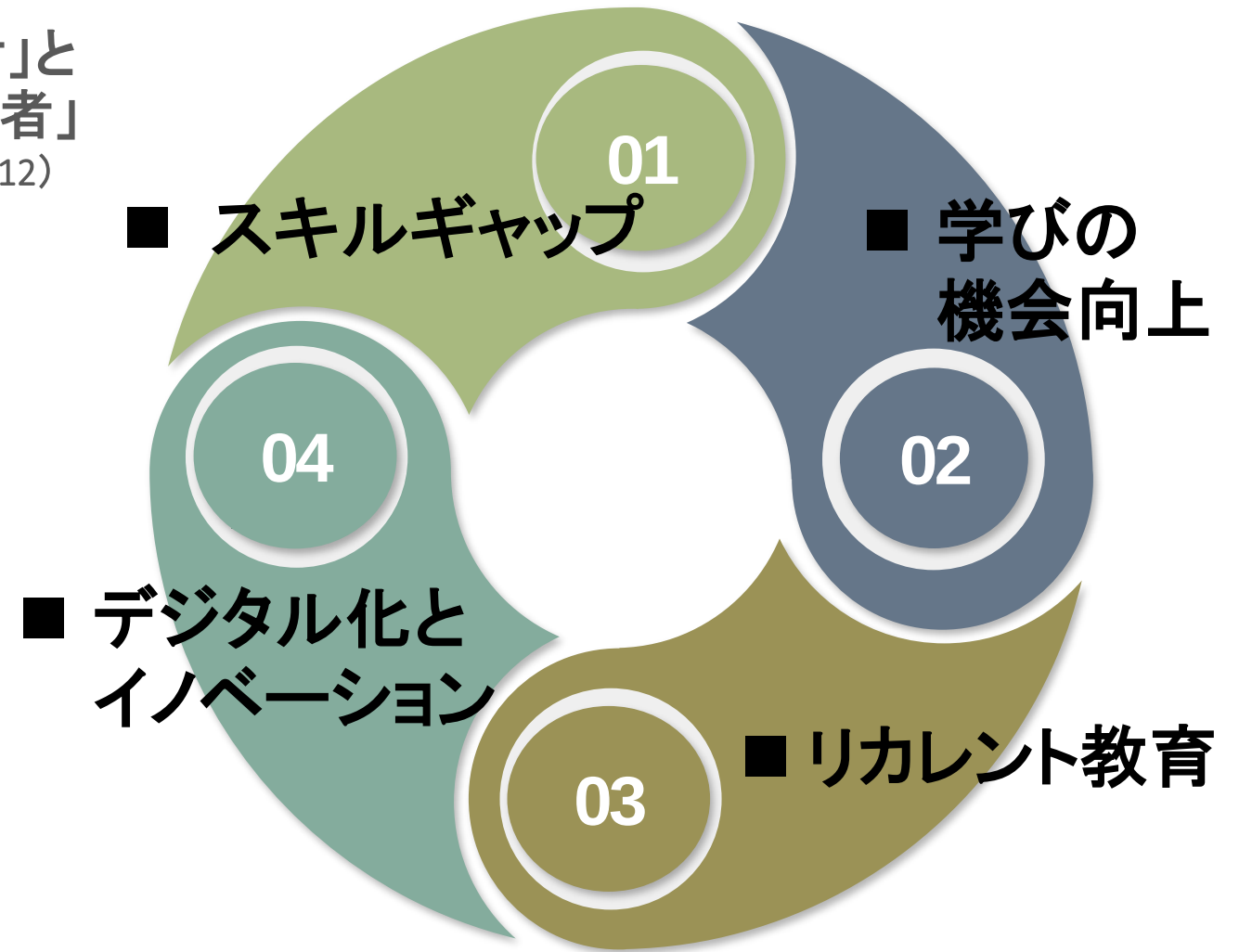
- ・ 短期間で低コスト
- ・ 個別最適化学習の促進

03

- ・ アップスキリング
- ・ リスキリング

04

- ・ Edtech産業(MOOCsなど)
- ・ 企業連携

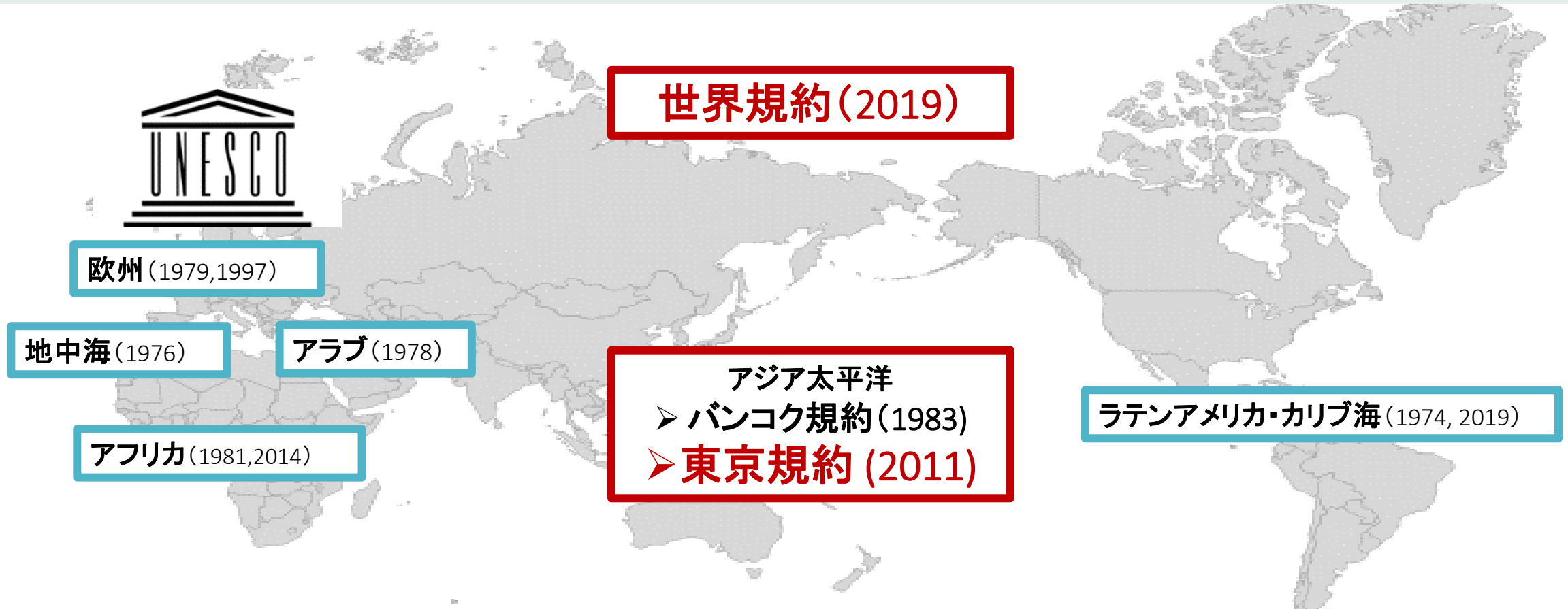


2. UNESCO 「東京規約」と「世界規約」



UNESCOの規約

目的: 各地域の経済・文化・技術発展を目指し、地域内の国際モビリティを促進
→ **高等教育等の学位・資格 (qualifications) の承認を円滑に**



第1世代(70～80年代): 労働市場へのアクセスなど職業人のモビリティを含める
第2世代(90年代以降): 学生や研究者交流などの学術モビリティに焦点化

東京規約(2011 Tokyo Convention)

高等教育の資格の承認に関するアジア太平洋地域規約

The Asia-Pacific Regional Convention on the Recognition of Qualifications in Higher Education

目的

締約国間で、学生や研究者など**国を越えて進学・就職等**をしようとする際の**高等教育資格を、受け入れ国が承認・評価しやすい仕組みを互いに整備**することにより、国際モビリティを促進。

締約国

オーストラリア、中国、ニュージーランド、**日本**、韓国、バチカン市国、トルコ、モンゴル、フィジー、ロシア、アフガニスタン、アルメニア（12ヶ国）

- 2017年12月：日本が東京規約に加入
- 2018年 2月：東京規約の発効（発効条件は5ヶ国締約）

世界規約(2019 Global Convention)

高等教育の資格の承認に関する世界規約

Global Convention on the Recognition of Qualifications concerning Higher Education

目的

高等教育の資格の承認のための包摂的な世界的枠組みを提供し、高等教育における世界的な移動等を容易にするとともに国際協力を促進・強化。

締約国

ノルウェー、ニカラグア、エストニア、フランス、ルーマニア、チュニジア、クロアチア、バチカン、リトアニア、アルメニア、イギリス、コートジボワール、キューバ、パレスチナ、スウェーデン、スロバキア、**日本**(17ヶ国)

- 2022年9月：日本が世界規約に17ヶ国目として加入（発効条件は20ヶ国締約）

「正規教育外の学び」も正式に認める動き

従来の考え方

伝統的学び(例:教室で何時間、何単位の授業を受ける)

資格保有者は何年間(時間)学び、何単位取得したか?

東京規約/世界規約の考え方

+ 非伝統的な学習形態 (Non-traditional modes)

+ 部分的な修学 (Partial studies)

+ 従前の学習 (Prior learning)

+ インフォーマル学習 (正規教育制度外で行われる学習: 労働・家庭・地域社会・余暇に関連する日常生活の活動)

+ 資格保有者は「何を身につけ、何ができるか?」

多様化・細分化する学びへの評価

外国において付与された資格の承認について決定を行う機関「権限ある承認当局 (Competent Recognition Authority)」

➡ 日本場合は、【高等教育機関・文科省・関連省庁】

※資格を承認しない場合、拒否する理由について出願者に説明する必要性

3. 入学前学習の承認

Recognition of Prior Learning



入学前学習の承認

Recognition of Prior Learning

■「正規または正規教育外（ノンフォーマル・インフォーマル学習）で過去に習得した学習成果の承認」

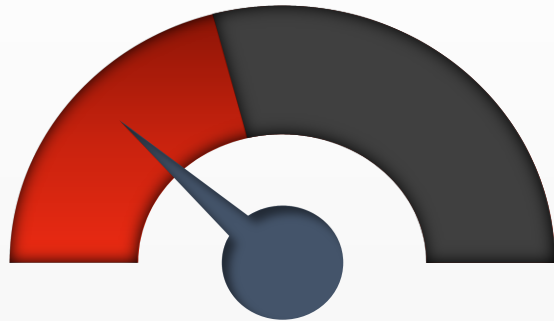
■“Credit For Learning, Not Experience”

国・地域	名称
欧州/UNESCO	Recognition of prior learning (RPL)
OECD	Recognition of non-formal and informal learning (RNFIL)
アメリカ	Prior learning assessment (PLA)/Credit for prior learning(CPA)
カナダ	Prior learning assessment and recognition (PLAR)
フランス	Validation des Acquis de l'Experience (VAE)
イギリス/マレーシア	Accrediting prior experiential learning (APEL)
メキシコ	Accreditation and certification of previous competences and knowledge
韓国	Acquisition of Academic Degrees through self-education
その他	Assessment of prior learning (APL), Valuation and validation of prior learning (VPL)

入学前学習の承認

Recognition of Prior Learning

入学(アクセス)



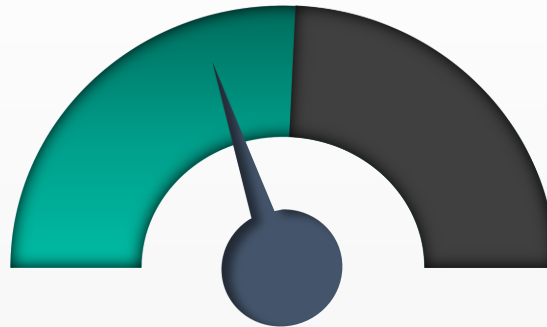
例) マレーシア

- ・適正テスト
- ・ポートフォリオ
- ・インタビュー

南アフリカ

- ・ポートフォリオ
- ・短期コース修了書
- ・受賞歴 など

単位認定



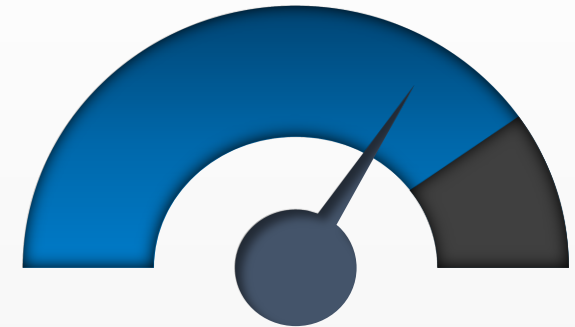
例) マレーシア

- ・チャレンジテスト
- ・ポートフォリオ

カナダ

- ・チャレンジテスト
- ・標準化試験
- ・ポートフォリオ
- ・エッセイ
- ・口頭試問、インタビュー など

教育資格取得



例) マレーシア

- ・ポートフォリオ
- ・実地調査
- ・チャレンジテスト
- ・キャップストーン

フランス

- ・書面調査(各証明書・将来計画書・志願理由書など)
- ・インタビュー など

日本の入学前既修得単位認定(例)

Recognition of Prior Learning

大学又は短期大学

大学又は短期大学（外国の大学又はこれに相当する高等教育機関を含む）で履修した授業科目における修得単位（**科目等履修生**として修得した単位も含む）



大学以外の教育施設等

- ・ 短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修
- ・ 大学の専攻科における学修
- ・ 高等専門学校の課程における学修で、大学教育に相当する水準を有するもの
- ・ 高等学校の特攻科の課程における学修で、大学教育に相当する水準を有するもの
- ・ 専修学校の専門課程のうち修業年限が2年以上のものにおける学修で、大学教育に相当する水準を有するもの



文部科学大臣の認定・委嘱を受けた学修

例：大学又は短期大学が行う講習又は公開講座、社会教育主事による講習、司書及び司書補、司書教諭の講習における学修、技能審査の合格に係る学修など



語学検定資格

例：実用英語技能検定、TOEFL、TOEIC、IELTS、中国語検定試験、漢語水平考試、中国語コミュニケーション能力検定など



国際バカロレア（IB）

例：IB 6科目の合計点数により自由選択科目として単位認定



職業資格

例：情報処理安全確保支援士、情報セキュリティスペシャリストなど





入学前学習の単位認定(PLA/CPL)の効果

- 時間の節約**: PLA/CPL の成人学生は、学位取得に平均 9 ～ 14 か月を節約。
- 学費の節約**: 成人学生は PLA/CPL によって 1,500 ～ 10,200 ドルを節約。
- 資格取得率の向上**: PLA/CPL を活用した成人学生は、非PLA/CPL の成人学生に比べて修了率が17% 高い。
- 教育機関の授業料収入増**: PLA/CPLを活用した成人学生は、より多くの科目を登録するため、大学での取得単位は非PLA/CPL学生と比較して平均17.6単位多い。



Source: CAEL & WICHE (2020)調査

正規教育外学習の「質保証」の試み

- 入学前学習の単位認定（PLA/CPL）とアクレディテーション
 - 6つの地域別アクレディテーション機関は、PLAのポリシーやガイドラインに、**入学前学習が教育機関が提供する学習経験と比較可能**とする内容を含めることを推奨 (CAEL, 2014)
- 連邦教育省のパイロット事業(2016)
 - 大学の**教育プログラムの50%以上を、アクレディテーションを受けていない大学外プロバイダーに外部委託**することを試行的に認め(現行の高等教育法では禁止)、連邦助成金の対象となり得るか検討
- **United States Qualifications Framework** の検討開始(2022)
 - マイクロクレデンシャルの扱いを確立することが急務 (Educational Credential Evaluators, 2022)

4. 全国資格枠組み National Qualifications Framework



全国資格枠組み (National Qualifications Framework: NQF)

- 各国内の学位・資格などのqualifications情報を**一元的に整理し、可視化を図る参照ツール**
- 各国の異なる**学位・資格の読みやすさ(readability)・比較可能性(comparability)**を高める**翻訳装置**
- これまで別々に制度づけられてきた**多様な教育訓練セクター間の関係を明らかにし**、各セクターで獲得される資格に対して**アウトカムや水準**を設定
- 現在、**150ヶ国以上で導入・検討**(うち130ヶ国以上で開発・導入・評価において発展的段階にあると報告: Keevy, 2020)



Source: European Union, 2014

NQFのイメージ

レベル	代表的な学位・資格(例)	学習成果指標		
		知識	技能	責任と自律性
8	Doctoral degrees			
7	Master's degrees			
6	Bachelor's degrees			
5	Associate degrees Advanced certificates Diploma qualifications			
4	Upper secondary (general/VET) School-leaving certificates			
3	Secondary education certificates VET qualifications			
2	Lower-secondary education Basic VET qualifications			
1	Primary education Basic VET qualifications			

期待するアウトカムと
達成水準
(何がどこまでできるか)

＋単位数など

5. マイクロレデンシャルの「質保証」の試み



マイクロクレデンシャルの開発(1)

■プロバイダー

- 学校・高等教育機関
- 学校・高等教育機関外(企業、政府機関、専門職団体など)の教育訓練サービス
- 両者の連携など

■カリキュラム

- 自学の既存の教育をベース
- アンバンドリング/再パッケージ化
- 外部連携による新規サービス

■他の資格との関係

- 単体で独立したものや、より大きな資格に向けて「積み重ね」て「持ち運ぶ」ことができる場合も

マイクロクレデンシャルの定義例(一部抜粋)

欧州 (Council of the European Union, 2022)	学習者が少量の学習で得た学習成果を記録したもの。学習成果は、透明性をもち明確に定義された基準に基づき評価される。 ＜中略＞・・・MCは独立したものや、より大きな資格に統合される場合もある。
欧州 (MicroHE, 2019)	最低 5 ECTS を付与する資格または資格のサブユニット
米国 (Credential Engine, 2021)	1コース以上学位未満
豪州 (Australian Government, 2021)	学習量は最低 1 時間で、AQF 資格より少なく、追加的、代替的、補完的なもの
ニュージーランド (NZQA, 2019)	資格より小規模で、高等教育制度で現在提供されていないスキル開発の機会 (5～40単位)

マイクロクレデンシャルの開発(2)

単位取得可能な マイクロクレデンシャル

- 正規教育資格レベルと一貫したアセスメントを含む
- 学習成果の達成により、正規教育資格への入学許可や単位認定を受けることができる
- 取得したい資格の学術水準を反映し、貢献する
- 学習者に求められる学習期間や労力は、取得したい資格の単位数に見合ったものである

単位にならない マイクロクレデンシャル

- アセスメントは行うが、正規教育資格レベルに沿っていない場合もある
- 学習成果を達成しても、正規教育資格への入学許可や単位認定につながるものではない
- 学習期間や労力が、正規教育資格に求められる学術水準に適合しているかどうかは問わない

マイクロクレデンシャルの質保証方法の模索

- 入学前学習承認(RPL)は国の制度や資格枠組み(QF)で推奨されているが、マイクロクレデンシャルを対象とした質保証の仕組みは存在していない。
(Australian Government, Department of Education, 2018)
- 現在、マイクロクレデンシャルの評価は、教育機関内の入学前学習承認(RPL)制度を通じて行う場合が多い。しかし、RPLは個別に手作業で審査を行うため、一般に拡張していくのは難しいと考えられている (OECD, 2021)
- マイクロクレデンシャルについて体系的な質保証枠組みは構築できるのか？
- さらに、既存の質保証枠組み(QF、単位数など)をどう活用できるか？

マイクロクレデンシャルに関連する国際プロジェクト

欧州

- Prior learning やマイクロクレデンシャルの質保証
- ボローニャプロセス
- MICROBOLプロジェクト: ボローニャ・ツール(ESG, ECTS, EQF)との適合性
- STACQ(Erasmus+&Nuffic)
- 各国の取組: 学術資格、職業資格の承認(NQF)

OECD/UNESCO

- ノンフォーマル学習: 学校教育外の特定集団への組織化体系化された学習活動(例: 公開講座、通信教育、研修)
- インフォーマル学習: 計画・体系化されておらず、学習者本人も意図していない学習活動(例: 家庭教育、職場、趣味)
- OECDプロジェクト: Alternative Credentials (Kato et al, 2020)
- ユネスコ地域規約 & 世界規約

北米

- Non-degree credentials (George Washington Univチーム)
- Prior learning assessment
- 非学位学習の質保証
- 地域別アクレディテーションと prior learning assessment
- 連邦教育省の試行プロジェクト
- CHEAプロジェクト
- Connecting Credentials (ルミナ財団)
- US Qualifications Frameworkの検討

南アフリカ

- Prior learning assessment
- マイクロクレデンシャル

アジア太平洋地域

- NZ: マイクロクレデンシャルの承認, レジストリ
- 豪州: National Microcredentials Framework
- ASEAN: Prior learning, ARQF
- 韓国・中国: 単位銀行

マイクロレデンシャルの開発・実装・承認に関するEUの10指針(2022)

(European Union, 2022)

1. Quality

外部質保証
内部質保証

2. Transparency

学習量(ECTS)
資格枠組み(QF)
MCプロバイダー情報を登録簿/DBに掲載

3. Relevance

学習ニーズの更新、労働市場との関連性を高めるためステークホルダー間の協力

4. Valid assessment

透明性のある基準に基づく学習成果評価

5. Learning Pathways

柔軟な学習経路、異なるシステム間のMCの積み重ね、検証、承認

6. Recognition

外国資格の承認に使用される標準的手順に基づき承認

7. Portability

安全なデジタルウォレット(例:ユーロパス)などを通じて、MC保有者が簡単に保存・共有

8. Learner-centred

対象学習者のニーズに対応
学習者は、内・外部質保証プロセスに参加

9. Authentic

MC保有者の本人確認
MC発行者の身元、発行日、発行場所

10. Information and guidance

MCに関する情報と助言を生涯学習ガイダンスに組み込み、広範な学習者に情報提供

マイクロクレデンシアル承認に関するチェックリスト

Stacking Credits and the Future of the Qualification (STACQ)

マイクロクレデンシアルの承認プロセスのガイドラインとなるオンラインアプリ「Micro-Evaluator」を開発
教育機関がマイクロクレデンシアルを評価する際に支援

マイクロクレデンシアル承認の7基準

1	質保証 (Quality Assurance)	・認定された教育機関によってコースが提供されているか。 ・教育機関の質保証メカニズムにコースが組み込まれているか。
2	検証 (Verification)	・コース修了証をオンラインで確認することができるか。
3	レベル (Level)	・資格枠組み(例: 学士、NQFレベル6)に照らして、コースレベルが修了証に記載されているか。 ・他の情報から、コースとNQFレベルを比較できるか。 ・修了証にコースレベルに関する情報が記載されているか。
4	学習成果 (Learning Outcomes)	・修了証に学習成果が詳細に記載されているか。
5	学習量 (Workload)	・修了証には学習量が単位(ECTS)で表示されているか。
6	評価 (Testing)	・受講者は、最終評価に加え、コース期間中に多様な評価方法を組み合わせてテストを受けたか。
7	受講者情報 (Identification)	・受講者の本人確認がなされているか。

プロバイダーの質保証

①高等教育機関がプロバイダーの場合

■ 教育機関自身の内部質保証 & 外部質保証によるチェック

- 外部質保証は、マイクロクレデンシャルを提供する高等教育機関が、その質を内部でレビューするための信頼性の高いシステムを構築していること(内部質保証)を確認する必要がある(Microbol, 2022)

例)

【外部質保証】

既存の質保証枠組み(資格枠組み、欧州質保証ガイドライン(ESG)、レジストリやラベルなどのその他の質保証ツールなど)

【内部質保証】

コースの質のレビュー、学習者・他のプロバイダー・ステークホルダーからのフィードバックなど

プロバイダーの質保証

②非高等教育機関がプロバイダーの場合

■第三者機関による審査・承認（＋レジストリへの登録）

例) ニュージーランド(NZQA)

同等性を証明するサービス

→ 資格枠組み(QF)レベル
＋単位数で表示

申請者(MC開発者)

- ・ 企業
- ・ 政府機関
- ・ 専門職団体
- ・ 海外教育機関
など

審査内容

- ・ MCの目的
- ・ MCを必要とする理由
- ・ 学習プログラムの内容・方法
- ・ アセスメントの方法
- ・ MC取得に必要な時間数
- ・ 就労者/学生がMC獲得後に
習得が期待されるスキル
など

プログラム開発者自身による情報提供が重要

課題: 正規教育外学習の「質保証」を進めるために

■教育プロバイダーの質保証

□プロバイダーが質保証制度内にある場合

- ・教育機関の内部質保証
- ・アクレディテーション機関？

□プロバイダーが質保証制度外にある場合

- ・当該分野の業界(専門職)団体による評価
- ・プログラム開発者自身によるレビュー・情報公開

□第三者組織による審査・承認(+レジストリへの登録)など

例) マイクロクレデンシャル
職業資格、検定試験、MOOCs
科目、国際バカロレア(IB)科目、
Advanced Placement (AP)科目、
就業経験など

■受け入れる際の質保証

□入学前学習承認制度の整備

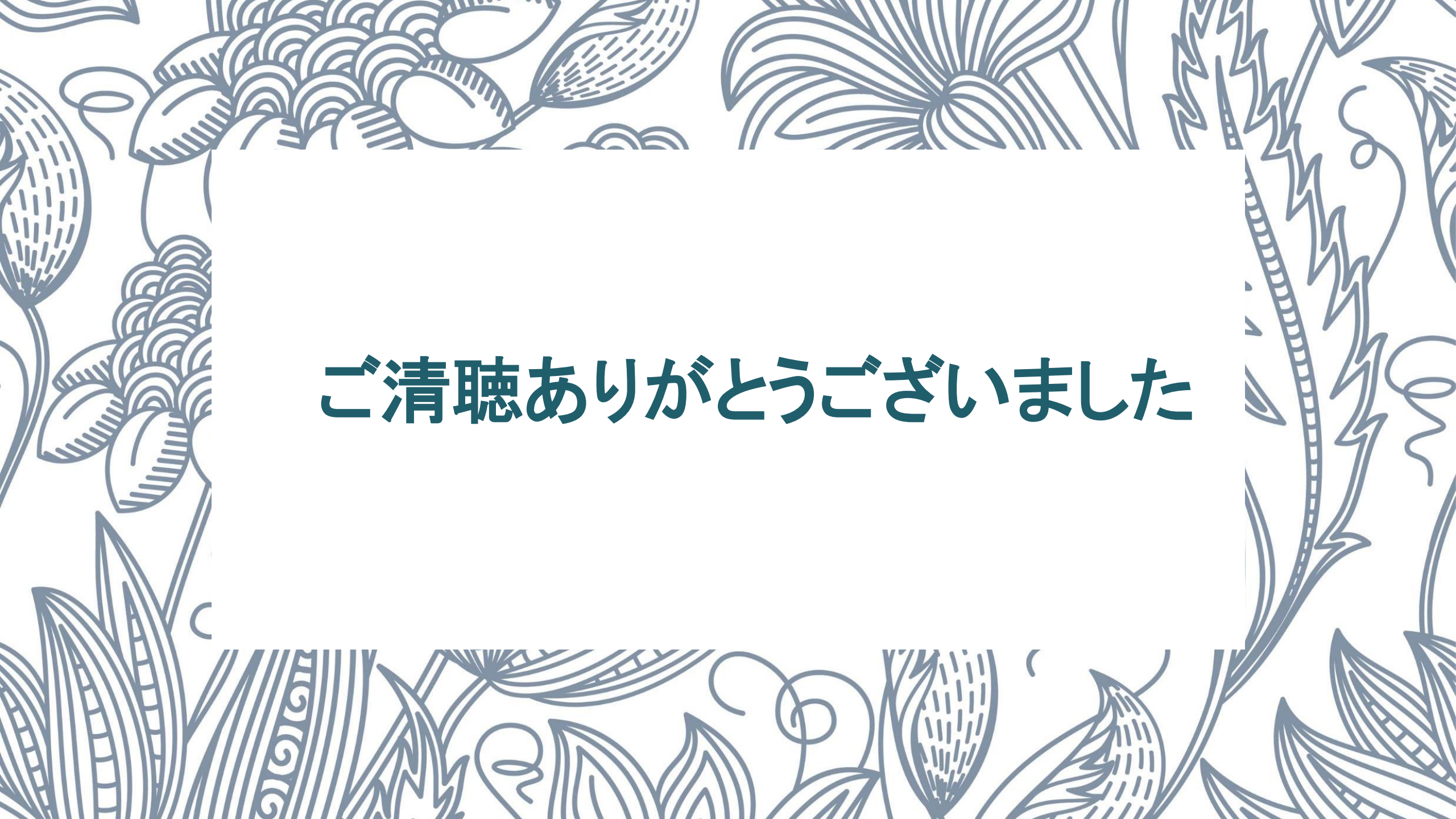
□マイクロクレデンシャルの定義、質保証の枠組みをどう検討するか

- ・単位数の範囲、資格枠組み(NQF)構築など

□法整備を検討するかどうか

マイクロクレデンシャルの質保証の主要素

- プログラムの目的
- 学習内容・方法
- 評価(アセスメント)
- 学習時間数(単位数)
- レベル(資格枠組み: NQF)
- 期待される知識・スキル

The background of the slide is a repeating pattern of blue line-art illustrations. These include various types of leaves, some with serrated edges, and clusters of small, round fruits or berries. The pattern is dense and covers the entire background.

ご清聴ありがとうございました